

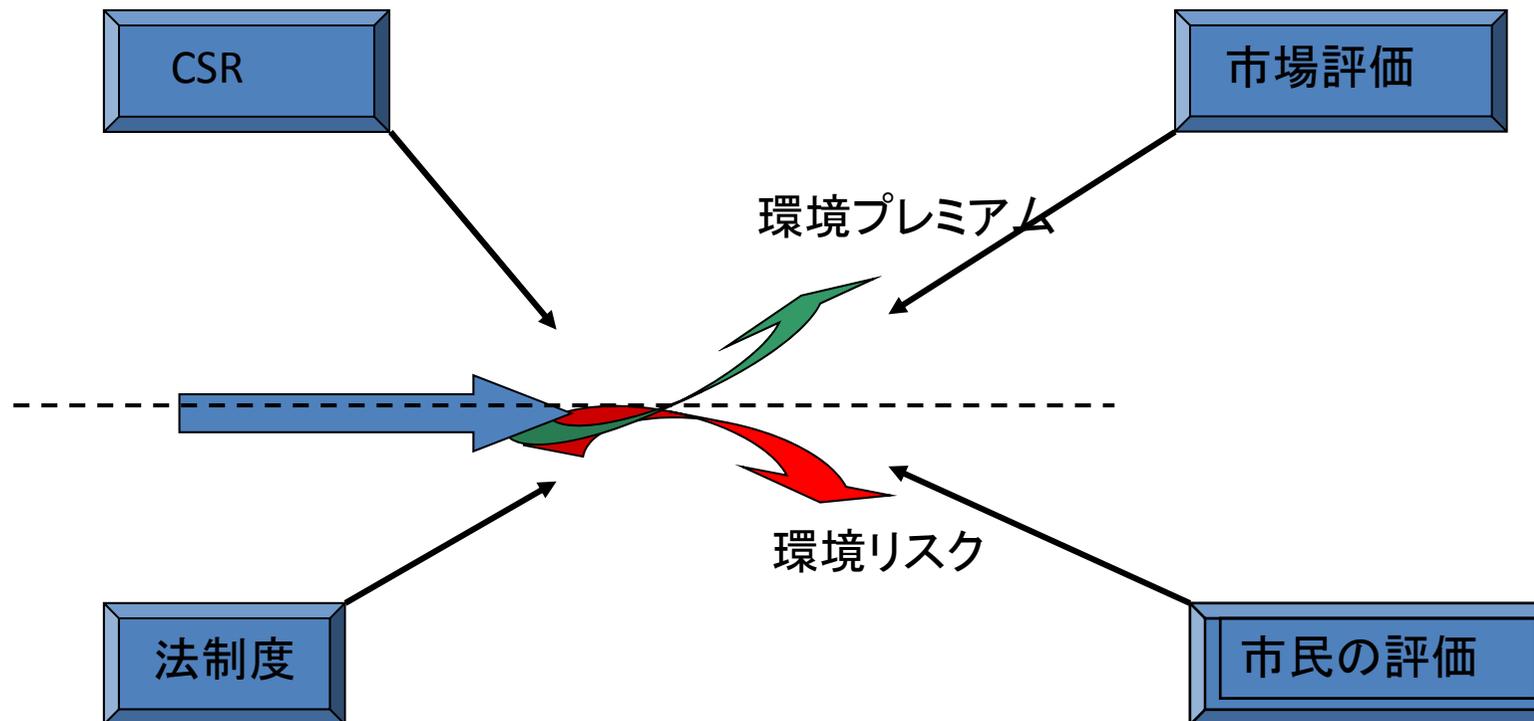
3R推進協議会講演会 「3Rのリスクとプレミアム」

2013年5月28日

3R推進協議会会長・慶應義塾大学教授

細田衛士

リスクとプレミアムの境界条件



環境リスクとプレミアムは裏腹

循環型社会のレジーム

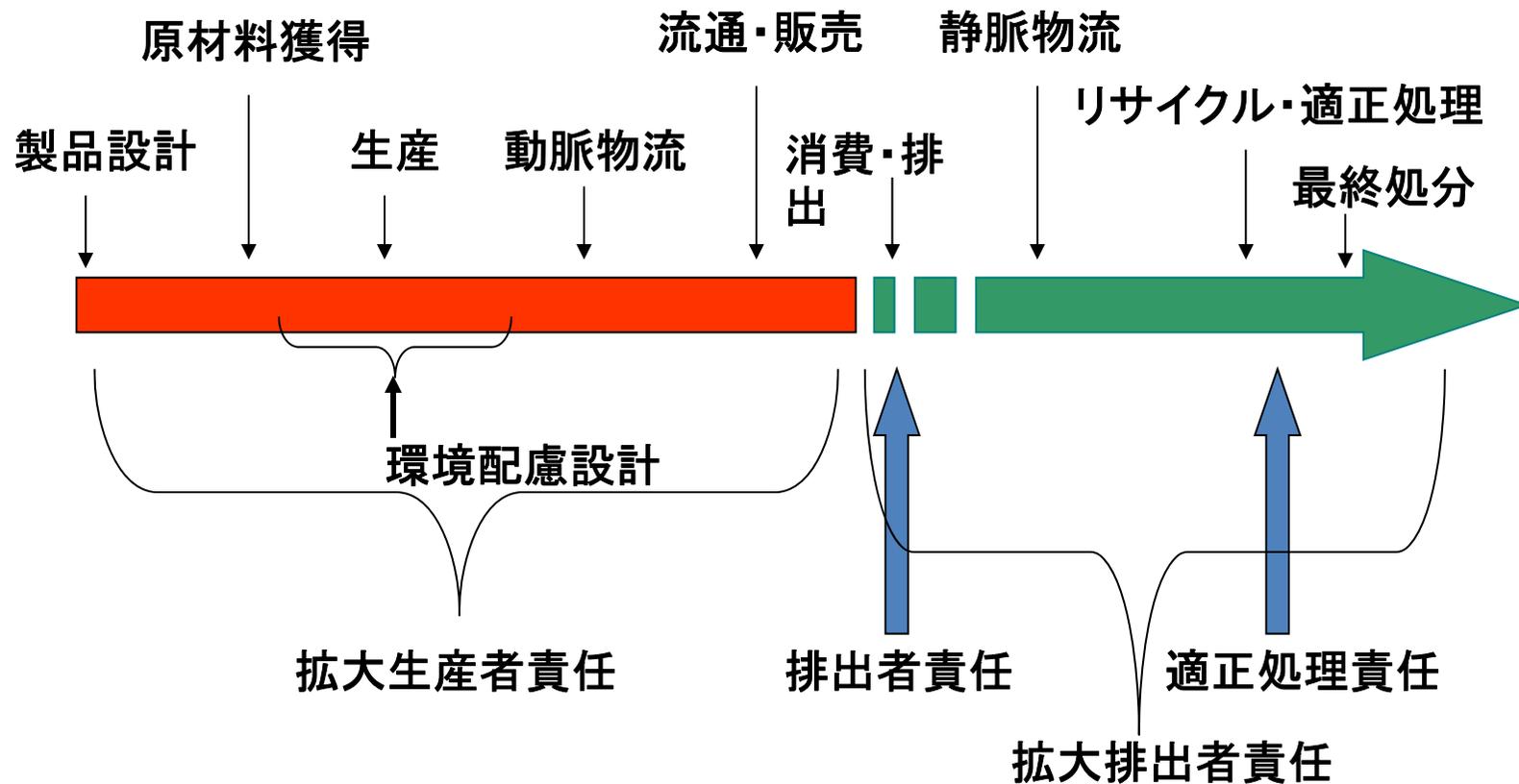
- レジームとは、法律を中心として商慣行、行動規範、慣習などからなる、人間の行動を規定する一定の枠組みのことで、経済財・非経済財を問わず取り引きあり方を規定する。
- 循環型経済社会のレジームを構成する要素として重要なのは、**法制度**、**CSRなどの自主的取り組み**、**市場評価**のあり方、**市民の評価**のあり方などである。

循環的資源利用のレジーム構築 で必要なこと

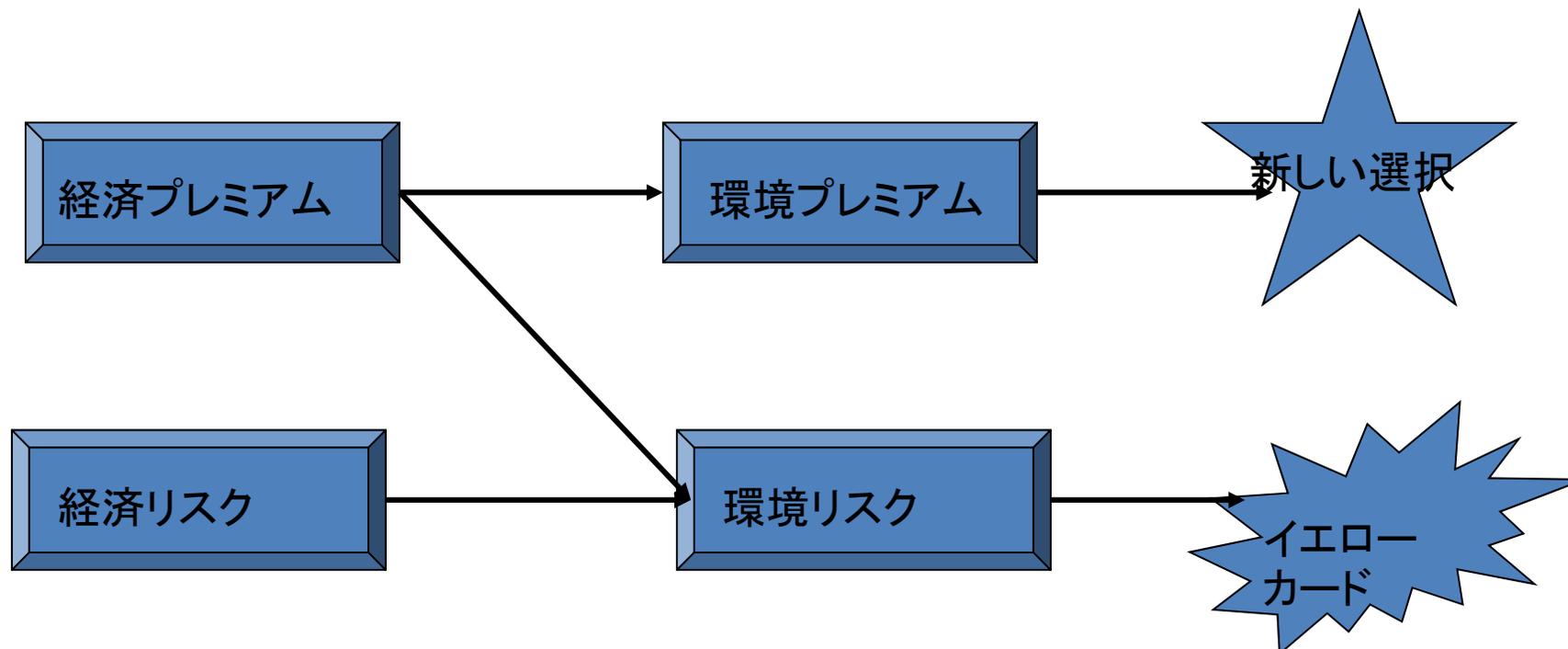
- 統合的な素材・生産物・残余物管理。
- 生産物連鎖上でのコーディネーションの必要性。
- すなわち、Product Chain Control、生産物連鎖制御が必要になる。
- PCCは、EPR(拡大生産者責任)、排出者責任、適正処理・リサイクル責任を包含する概念。

生産物連鎖におけるモノのフロー制御 (PCC)の必要性

製品の生涯



イメージ図



経済プレミアムは環境プレミアムの必要条件。しかし、経済プレミアムを持った企業も、環境リスクを犯す可能性がある。経済リスクを犯す企業は、結局環境リスクも犯しがちだ。

アクター間のコーディネーション

- PCCを実現するためには、静脈経済に参加するアクター間のコーディネーションが必要。
- (1) 追尾可能性 (2) 説明責任 (3) 透明性の3つを能力を、コーディネーションによって強化する。
- 特に、静脈物流を考えるとこのことは明らか。
- 静脈物流は、動脈と異なり、「疎」なる資源を「密」にする物流。しかし、ノウハウの蓄積が少ない。⇒ここにプレミアムの要素がある。

これからの大きな課題

- 動脈経済と静脈経済の接合部分（インターフェース）には難しい部分がたくさんある。
- たとえば、動脈相場の影響。
- 現在鉄スクラップ、非鉄スクラップ（貴金属、稀少金属）の相場の変動は、3Rにも大きく影響する。⇒プラスの部分とマイナスの部分。
- 相場上昇は資源節約効果がある一方、相場を上げた効果は資源利用の拡大を意味している。

静脈資源の需給バランス

- 静脈市場は、動脈市場のように機能しない。
(⇒情報の非対称性)。
- それが入り口問題、出口問題をもたらす。
- 入り口問題：静脈資源が集荷できない。(現在のような状況。)いかに玉を集めるか！！！！
- 出口問題：静脈側からの生産物に十分な需要がないこともある。
- 両方の側で需給をマッチさせることは難しい。

まとめ

- 環境対応には、リスクとともにベネフィット、更にはプレミアムが付きまとう。間はない。
- 対応いかんによっては二極分解が起きる。
- 循環型社会のレジーム構築でも、リスクとプレミアムが分かれる。既に別れ始めている。
- PCCにしっかり対応する主体がプレミアムを取れる。
- PCCを完結するには、**アクター間のコーディネーション**（あるいは**システム**と言い換えてもよい）が必要。